

大屋小学校

学校だより

大屋っ子

令和6年3月14日

卒業おめでとう号

—目指す児童像—
よく考える子
仲よくする子
心身ともにたくましい子

「あきらめないで、何度でもその手をのばして」

「ぼくは信じてるから 君もあきらめないでいて」

「何度でもその両手を あの空へ」



最後にみなさんが歌うことに決めた「あとひとつ」の歌詞。
なりたい自分、将来の夢にむかって、何度でもその手をのばしてつかんでください。

“小学校生活最後の思い出づくり”となるはずの6年生の3学期。がんばろうと心に決めていたことや、最後にやりたいこともあったでしょう。12人で過ごす最後の時間を楽しみにしていたと思います。こんな日々がくるとは夢にも思いませんでした。

災害の恐ろしさや避難生活の不便さ、子どもであっても一人一人がたくさんのことをがまんし、受け入れないといけなかった。見ず知らずの土地や学校で過ごした人もいますね。友達とはもちろん、家族とも離れて過ごした人もいます。不安なことやつらいこともあったと思いますが、本当によくがんばりました。「どんな経験も自分の財産になる」とは言いますが、このような大震災が財産になるのかとも思ってしまいます。それでもわたしたちは大切なことを忘れないようにしたいですね。

一つは「感謝の気持ち」。日本中から届いたたくさんの支援とメッセージ。また、昼夜を問わず道路を通し、電気や水の復旧、救助に駆けつけてくれた、たくさんの人々。感謝の気持ちを忘れずに、いつかみなさんも誰かを支援できる人になってください。

もう一つは、「生命や心の大切さ」。震災で多くの尊い生命が失われ、家や財産、思い出をなくし、心が深く傷ついた人もたくさんいます。生命や人の心、何気ない日々の大切さを忘れず、だれに対しても、思いやりの心を持ち続けてほしいと思います。

明日は卒業式。会場に行けない在校生と職員もみなさんの卒業を心からお祝いします。そして、中学校での日々が充実したものになるよう祈ります。どんなこともあせらずゆっくり、あきらめないで。みなさんの活躍とチャレンジに期待しています。

校長 井上 千佳

各種表彰・入賞者

【令和6年石川県書きぞめ展】

書研大賞 6年：岩崎玲皇

